

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 京都教育大学連合教職実践研究科 ※実施機関名、及び連携機関名（ある場合のみ）を記載してください。
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・京都教育大学教職大学院コラボ研修】 京都教育大学幼児教育協働研修 —造形表現を楽しむ保育実践力向上ワークショップ
支援事業報告書	研修等名 造形表現を楽しむ保育実践力向上ワークショップ ※内容をわかりやすく伝えるためのタイトルを記入してください。
	開催日時：令和5年7月12日（水） 12：50～17：00 開催場所：京都教育大学附属幼稚園（京都市伏見区桃山井伊掃部東町16） 参加人数（総数）と参加者の属性：（82人）幼稚園教諭66人、保育教諭6人、保育所保育士3人、行政関係者4人（うちオブザーバー参加3人）、大学教員2人、大学院生1人

内容： ※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

京都府下の幼児教育関係者を対象として、保育実践力向上を目指す研修を以下のような内容で実施した。

テーマ：幼児の造形表現

講師：京都芸術大学名誉教授 水野哲雄 氏

(1) 5歳児クラスを対象とした造形表現活動ワークショップの観察

遊戯室を会場として、5歳児29名を対象に、講師が多様な材料・素材・廃材を用いた造形表現ワークショップを実施し、研修参加者はその様子を観察した。観察は、全員が遊戯室に入ることが困難なため、初任期及び5歳児担任保育者30名程度を遊戯室での観察、他の参加者は、オンライン配信システムを通じて別室にて観察できるようにした。

(2) 講演

遊戯室を会場として、保育者等を対象とした講演会を実施した。5歳児とのワークショップの内容、幼児の表現行為を振り返りつつ、身体感覚と表現行為についてや、それらを幼児の発達と保育内容の問題としてどうとらえるかについて等、専門的かつ実践的な講演を聴くことを通じて学びを深めた。

(3) 保育者等対象の造形表現ワークショップ

遊戯室、テラス、1階保育室を会場として、幼児が用いた材料・素材・廃材や参加者が持ち寄った廃材等を用いて、造形表現ワークショップを実施した。多様な園のメンバーが混じりあうように構成したグループで、多様な物とかかわっている様子について、講師が巡回してコメントを加え、さらに活動を深めた。

(2)と(3)は数回往還するかたちで実施した。

成果： (事後アンケートより)

・講師の先生がつくれるあたたかく心地よい時間や空間の中で子どもたちのいきいきと遊ぶ姿を見たり、教員のワークショップをしたりすることで、表現することの楽しさを実感した。子どもたちが様々な材料に触れ、試し、自分で想像していく中に先生との心の対話があることが印象的だった。そのような心の対話のある保育を子どもとともに創造していきたい。

・表現領域はずっと苦手で、素材の活用もアイデアも創造性が本当に乏しく、自信がなかったが、ワークショップでは同じグループの先生方と話し合いながら創り上げていくことで、知らない間にどんどん楽しいアイデアが湧いてきた。これが自由な表現なんだと思った。だとすると、私は常、保育をする時、何に縛られているのだろう、と改めて問い直してみようと思った。

・材料を手を持ちすぐに作り始めるのではなく、その材料を並べたり積んだりしながら試す時間に子どもたちは想像を膨らませると感じた。すぐに作ろうと思ってしまっていたが、遊ぶことのできる心の余裕や時間の余裕をもちたい。

・実際にワークショップで、表現するということを自分も経験でき、そして、水野先生の講演を聞いて、理論も実践も学んで腑に落ちた。

過去の研修アンケートにおいて、研修希望が最も多かった表現領域について、実践的な研修と理論的な研修を組み合わせることは、保育者の表現に対する見方を変革する研修の成果へとつながったと考えられる。

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ・子どもと講師の先生の実践を観察する時間を設け、観察者の多さについてはオンラインシステムを用いて、別会場での観察ができるようにしたこと。
- ・講演とワークショップを何度か往還することで、理論的な内容が体感・実感を基に理解できるようにしたこと。
- ・できる限り園種別を超えたグルーピングをすることで、普段の園内研修と異なる刺激が得られるようにしたこと。
- ・事前の打ち合わせや準備段階から講師の先生にご指導いただいたことで、教材の提示の仕方についても新たな提案ができたこと。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



子どもの造形表現活動ワークショップの観察で、講師の先生の投げかけや子どもの自由な表現のやりとりに引き込まれる観察者



講演とグループワークショップを往還しながら学びを深める様子